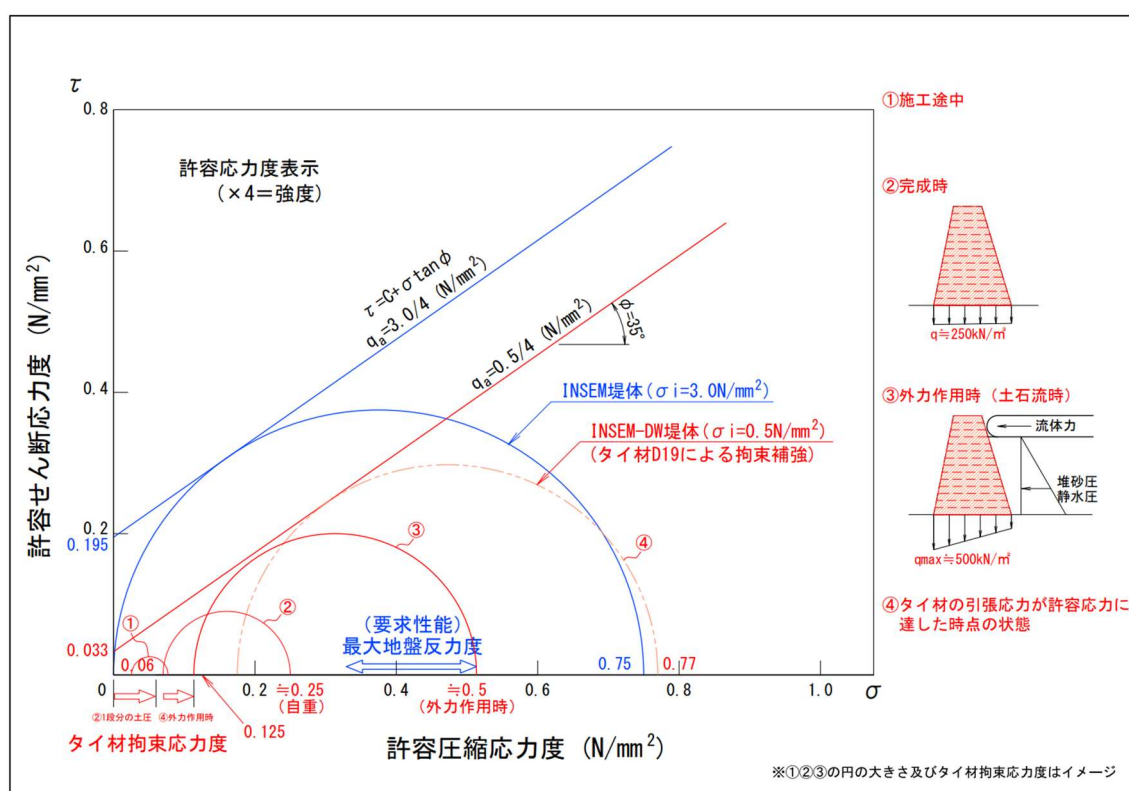


① 寒冷地におけるソイルセメント堰堤構造のあり方

Q1. INSEM-DW はタイ材に引張力を加えながら施工していないため、図のように（図中の④の状態、堤体強度 $3.08\text{N/mm}^2 (=4 \times 0.77\text{N/mm}^2)$ ）ならないのではないか

A1. タイ材に引張力を加えながら施工していませんが、堤体内部に発生する内部応力に応じて、タイ材に張力が発生し拘束効果が発揮されます。施工時～外力発生時のモール円は、①～③のようなイメージになり、④の状態はタイ材に発生する引張応力度が許容応力度に達する状態（堤体強度は 3.08N/mm^2 ）になります。



Q2. 現地発生土の粒径加積曲線が 3.0N/mm^2 を発揮する範囲に位置していた場合、INEM-DW を採用するメリットは薄いのではないか
 (発表概要資料 図-5 DW 構造にした場合の粒度適用範囲の拡大 参照)

A2. 3.0N/mm^2 の強度を発現する範囲であっても、INSEM-DW はセメント投入量が少なくなるため、コスト面や環境面についてメリットがあります。